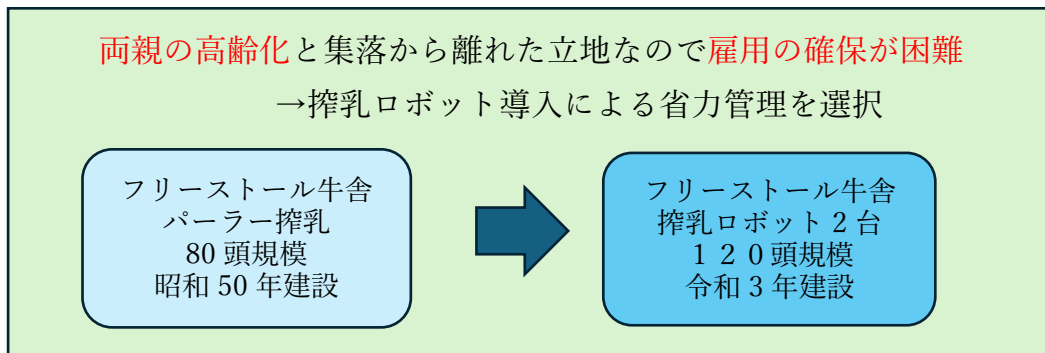


事例2 「搾乳ロボット導入による省力化と規模拡大を実現」 草地林地総合整備型葛巻第二地区（平成29～令和3年）

○事業を導入の背景



○事業の概要

- ・施設整備 牛舎 120頭規模 2260㎡ 鉄骨 1棟 フリーストール120床
- ・設備機械 搾乳ロボット2基、バルククーラー、徐糞設備、牛床通路マット
自動換気システム、餌寄せロボット、カウブラシ等
- ・家畜排せつ物処理施設 スラリートタンク1975m³、ポンプ、攪拌機

事業費 405,801 千円 受益者負担 162,038 千円 経産牛1頭当たり負担額 1,350 千円



全景



牛舎



ベットと通路をマット敷



搾乳ロボット 2基



スラリーストア



餌寄ロボット

○事業実施効果

	事業前	事業後	対比	
経産牛頭数	100頭	→ 120頭	(120)	増頭
平均搾乳回数	2回	→ 3.1回	(155)	増加
経産牛1頭当たり1日乳量		35kg/日・頭		

搾乳ロボット導入により、同じ労働力で両親の労力負担を軽減と増頭による出荷乳量増を同時に実現できました。また、搾乳ロボットからリアルタイムに提供される個体情報は、牛群管理支援において有効な情報となっています。

牛床マットや断熱自動換気システム等アニマルウェルフェアに配慮した畜舎で事故牛が減少しました。

生産者の声

草地畜産基盤整備事業は、手を挙げてから事業実施まで時間はかかりますが、様々なアドバイスをいただきながら十分計画を練ることができました。また、事業実施において関係機関の方々との関りができたことが良かったことでした。

問い合わせ先：公益社団法人 岩手県農業公社 畜産振興課